

● 四 国

岸 啓 子

四国唯一のプロオーケストラ瀬戸フィルハーモニー(高松市)は、定期演奏会(第36回 指揮:三ツ橋敬子 ピアノ:宮崎朋菜 2月 第37回 指揮:大友直人 ヴァイオリン:佐藤まどか 9月)にそれぞれ若手とベテランの指揮者、ピアノとヴァイオリンのソリストを迎え、チャイコフスキーの協奏曲を柱にロマン派で統一した攻めのプログラムを好演し、「アニメシンフォニーコンサート」(新居浜市・広島県福山市11月)では昨年に続き県外遠征にも成功を収めた。「街クラシックin 高松」、イオン高松東連続ミニコンサート、「さぬきのもりのおながくかい」(5月)、「0歳からのコンサート(高松市主催)、学校巡回芸術教室、「～星に願いを～ロマンティック・チェロ」(子ども未来館プラネタリウム12月)等地域密着型演奏活動も街の期待に応える形で順次再開されている。

高松交響楽団は、創立70周年定期演奏会(第126回 指揮:田中一嘉 6月 第127回 指揮:大勝秀也11月)、かがわ文化芸術祭「かがわ第九2022演奏会」(指揮:松下京介 vo:高橋 山下 若井 岡 12月)、「アーツフェスタたかまつ～わたしの街のソリスト達～」(6月)等活躍目覚ましく、徳島交響楽団(第51回定期 指揮:山田啓明 9月)、愛媛交響楽団(50周年記念 第50回定期 指揮:森口真司)、四国フィル(35周年 指揮:澤和樹 高知市 3月)も意気軒昂である。高知交響楽団は、太平洋戦争以来となる定演3回中止後第168回定期(指揮:秋山和慶 vl:堀米ゆず子 7月)ではシベリウスのヴァイオリン協奏曲 ラフマニノフの交響曲第2番等大曲を並べたプログラムを熱演した。人口3万人強の小都市ながら毎年町を挙げて実施される四万十川国際音楽祭は、中村交響楽団(第89回定期7月)を中心に、ドイツから若手8重奏団を招くなど質の高いイベントを並べた。日本のベートーヴェン第九初演の地で第九演奏の歴史を紡ぐ丸亀フィルも健在である。

第5回たかまつ国際古楽祭(柴田俊幸:芸術監督、フラウト・トラヴェルソ 9～10月)は「チルイ古楽」(くつろいだ古楽)をテーマに「レ・ヴァン・ロマンティーク・トウキョウ」のメンバー、A.ロマニウク(フォルテピアノ)や地元の森川麻子(ヴァイオラ・ダ・ガンバ)他を迎え、メインコンサートではモーツァルトとベートーヴェンの各「ピアノと管楽のための五重奏曲」等をブロードウッズのフォルテピアノとピリオド管楽器で演奏し、瀬戸内海の直島では「島古楽」をまったりと展開した。

高知パッサカリアフェライン(指揮:バス:小原浄二)は25周年記念演奏会を東京で公演し(浜離宮朝日ホール3月)、コレギウム・ムジクム高松(主宰:指揮:大山晃 協力:四国二期会香川支部、高松交響楽団 5月)はコジェルフ作「ピアノ連弾と管弦楽のための協奏曲」他多彩なプログラムで「古典派の秘曲×世俗のパッサカリア」を実施した。

オペラ関連では、四国二期会(高松市)、オペラえひめが公演を延期し、独自路線を走る市民オペラ「ちえちいりあ」(高松市)はドニゼッティの『鐘』(7月)を落語ペラ形式で、「さわかみオペラ」は『カルメン』を東京と徳島とのコラボにより上演した(12月)。4月に旗揚げした「しこちゅーオペラ」(代

表:高橋梢)はクラウドファンディングでメノッティのオペラ『電話』他(四国中央市9月)を、昨年始動した日露音楽文化サークル「ベリョーザ企画ヒメオペ」(代表:池田慈)は、コンサート形式で『蝶々夫人』(蝶々夫人:角南有紀 ガネヴィ正美 四国中央市・松山市12月)を演奏した。

また、大規模コンサートの再開に慎重だった愛媛県では、その空白を埋める形で、美術館、萬翠荘、坂の上のミュージアム等文化施設を会場に小規模コンサートが活況を呈することになった。

昨年四国では4県中2県が最低賃金全国最下位(最安)となった。地域経済の低迷がコロナ禍からの音楽活動再興への逆風とならないことを祈りたい。